

1781~88年 松前藩が運上屋を置き、漁場振興を図ったのが稚内港のはじまりとされる。

1901年 5月、町政施行に伴い鉄道と築港の積極的な整備をはじめ。

1905年 日露戦争によって日本が樺太(サハリン)の割譲をうけ、中継基地としての要請が高まる。

1911年 日本郵政(株)が季節航路で稚内・大泊(現コルサコフ)間定期航路を開航。樺太への最短航路の拠点となる。

1919年 政府による第1期北海道拓殖計画に、急遽稚内港防波堤と貨客バースを整備する港湾築港計画が追加となる。この計画に合わせて鉄道省船入潤、町営船入潤の建設も計画される。

1920年 稚内港建設に着手

1923年 函館・稚内間を結ぶ直通列車に接続する鉄道省直営の稚内・大泊間定期航路を新設。本州・北海道・樺太ルートが形成される。稚内・大泊間の稚泊連絡船就航。



停泊中の宗谷丸(大正11年)

1924年 北日本汽船(株)による稚内・本斗間(現ネベリスク)の連絡船航路を開航。樺太開発が促進される。また、利尻島・礼文島への航路が開航。

1935年 稚内・鷺泊・香深三角航路開港。

1936年 稚内港整備事業の一環として、北防波堤ドームが建設される。



稚内橋樑駅(昭和13年)

1945年 太平洋戦争終結。

1948年 関税法による「開港」指定を受ける。

1949年 戦後サハリンからの引揚者により人口が増え稚内市制施行。沿海州沖・東西サハリン沖・間宮海峡海域と広範で、全国有数の漁港として多くの労働者が定着。沖合底引網漁業と関連水産加工業が発展。

1950年 利尻島・礼文島が道立公園に指定。

1952年 出入国管理令による「出入国港」指定を受ける。

1957年 港湾法により、「重要港湾」の指定を受ける。

1962年 検疫法により、「検疫港」の指定を受ける。

1965年 利尻島・礼文島が国定公園に指定。

1969年 稚内港湾取扱貨物量が100トンを超える。

1972年 稚ノ連友好親善使節団が戦後初、サハリン州ネベリスク港へ直接乗り入れ。稚内市とネベリスク市が友好都市を提携。

1974年 「利尻礼文サロベツ国立公園」に指定。観光客が増加し、フェリーの大型化が図られる。

1975年 稚内港湾取扱貨物量が200万トンを超える。

1976年 稚内港漁獲量が国内第2位の51万トンを記録。

1977年 200海里漁業専管水域を設定。

1978年 老朽化が著しかった北防波堤ドームの全面修復工事の実施。

1987年 北防波堤ドームと一体化した遊歩道を備えた親水護岸「しおさいプロムナード」が完成。

1991年 稚内市とコルサコフ市が友好都市を提携。[稚内マリンタウンプロジェクト]を策定し、第1期事業を開始(〜1994年)。

1995年 稚内・コルサコフ間定期航路(サハリン定期航路)が戦後50年を経て復活。「マリンタウンプロジェクト」第2期事業(〜2010年)開始。

1996年 日ロ定期航路棧橋が完成。

2001年 稚内市とユジノサハリンスク市が友好都市を提携。北防波堤ドーム、「北海道遺産」に指定。

2003年 北防波堤ドーム、「土木学会選奨土木遺産」に認定。

2005年 貿易総額が開港以来最高額(317億6,018万円)を記録。末広ふ頭が、宗谷丘陵に建設される風力発電施設資材の一時保管場所として利用される。

2007年 副港市場の完成。北地区・港地区を中心としたエリアが「わっかないみなどアアシス」に認定。

2008年 中央埠頭に国際・国内フェリーターミナルオープン。

2011年 外航船舶の入港隻数が開港以来5万隻を達成。日本海側拠点港選定。

2012年 北防波堤ドーム公園オープン。

2013年 副港市場とポートサービスセンターが「わっかない海の駅」に認定。

2015年 中央埠頭にボーディングブリッジが完成。

2018年 末広埠頭東岸壁が大型客船にも対応。

北防波堤ドーム(旧稚内港屋蓋式防波堤)



全長427m、高さ13.8mの半アーチ形をした北防波堤ドーム。70本の円柱が連なり、古代ローマ建築の回廊をほうふつさせる世界的にも類を見ない建造物です。

当初、高さ5mの防波壁が計画されていました。しかし、防波堤を飛び越える波浪と強風から樺太航路連絡船発着場の乗客や貨物の安全を確保するため、更に堅固な施設が求められ、ドーム形防波堤の建設に至りました。設計したのは、当時26歳の若き技師、土谷実氏。独特な形状に工夫を施し、1931年(昭和6年)に着工し、5年を費やし、1936年(昭和11年)に完成しました。

その後、築設以来半世紀を経て、老朽化が著しく、安全面での支障が出始めたため、1978年(昭和53年)にドームの全面修復工に着工、1981年(昭和56年)建設当時の最新技術を駆使して築かれた往年の雄姿が甦りました。また、1999年(平成11年)から3年間、耐震設計法の見直しに伴う柱部の耐震補強工事やその他の劣化部分の補強工事、2016年(平成28年)から予防保全計画に基づき老朽

化対策を行い、より安全性を高めた施設となりました。

現在、北防波堤ドームは、現役の防波堤としてだけではなく、稚内港のランドマークとして、また、観光スポットとして、全国的にも知名度が高まっています。内部を多目的広場として活用し、各種観光イベントや市民の交流事業が開催され、稚内市のシンボルとして、観光客や市民からも幅広く親しまれています。

稚内港及び樺太航路の歴史を伝える構造物として、2001年(平成13年)10月、「北海道遺産」に選定されました。2003年(平成15年)11月には、その特異な構造と建設当時の技術が高く評価され、「土木学会選奨土木遺産」にも指定されています。



北海道稚内市

